

# やまきた文化

'25-3 \* No.44



岩栗市山崎文化協会

# 文化財を活用しよう

六栗市山崎文化協会 会長 前野 良造

山崎八幡神社の能舞台は元禄12年（1696）建立の由緒ある舞台である。昭和55年（1980）からほぼ隔年で薪能奉賛会により「奉納薪能」が開催され、山崎の秋の風物詩となっていた。

平成30年（2018）第二十回をもって一旦定期開催は終了したが、四十年近くに亘り一流の演者による伝統文化を身近で実感できる機会となり、近郊からも大きな期待を集め、地域の誇りでもあった。あらためて奉賛会に感謝と敬意を表したい。

三百余年の風雪に耐え老朽化が激しくなった舞台は平成19年（2007）大改修が施され、昔の面影を残しながらも伝統的建築様式と最新技術を駆使した立派な舞台に生まれ変わった。近年はコロナ禍のもとイベントで使われる機会もなくなり、閑静な境内に立派な舞台が寂しげに佇んでいるだけだった。このふるさとの宝を何とか活用したいと、文化協会では3年ほど前から、季候の良い秋に舞台を公開。昨年は文化協会会員など7団体が舞台上がり、芸を披露いただいた。境内では茶華道協会によるお茶席も設けられ、山崎の文化活動の一端を紹介する機会となった。

山崎八幡神社の麓の「酒蔵通り」にも文化財的価値の高い建物が密集している。2棟の国登録有形文化財、4棟の風景観形成重要建造物などが宿泊・飲食施設などとして活用され、まだまだ活用の余地がある。その上、昨年ユネスコの無形文化遺産に登録された「伝統的酒造り」を継承する2軒の老舗酒蔵など、六栗の誇る「文化財通り」となっている。

伝統的建造物は遺産として見るだけでも価値があるが、それが今も現役で、また生業として活用されていることに一層の価値があり、継続して文化的価値を醸し続ける。

六栗は「日本一の風景街道づくり」を標榜しているが、山崎八幡神社から酒蔵通りは間違いなく「今も活き続ける六栗らしい風景」だ。



## ◇ 目 次 ◇

文化財を活用しよう	前野 良造	1
娑婆と浄土	宇野 裕章	2
（特別寄稿）		
私の画業と文化財の模写保存修復	秦 誠	7
短歌	森元 満子	11
俳句	田中 良子	13
ファミリーコンサート	早川 佐恵子	15
活動十年目に思うこと	小林 由佳子	15
新潮会72年目のあゆみ	藤井 哲郎	16
二〇二四年もありがとう！	石田 陽子	16
大河ドラマ「光る君」	三谷 恭三	17
「平安京の驚き！」		
— 京都の歴史ロマンを歩く —	三宅 哲朗	17
芸術で心を豊かに	清水 喜久代	18
合唱団に入って	田岡 有未	18
推しごと	野村 恵子	19
詩吟と人生	福井 賀龍鳳	19
主人を亡くして	大園 達子	20
オカリナを楽しんでいます	矢野 律子	20
私とポケモンGO	野村 和男	21
ホップ、ステップ、ジャンプなのか、		
平成会	薄木 洋明	22
ふるさとの暮しの記憶と記録	志水 豊章	22
耳を重ねて	上垣 勝子	23
出会いと学び	春本 英明	23
川柳破丸会	長川 伸介	24
山崎・いさわ冠句会	宇田 幸夫	25
兵庫県高齢者特別賞 受賞（浅田耕三さん）		25
持続可能な伝統芸能の継承をめざして	富士川 満	26
事務局だより	伊藤 次郎	27
編集後記	大谷 司郎	27
表紙画	福岡 久藏	
表紙題字	山部 桂翠	
挿 絵	福岡 久藏	

# 娑婆と浄土

宇野 裕章

(山崎町五十番)

## はじめに

京都の東本願寺前の仏教書を専門に扱う書店で、『いま、仏教が教えてくれること―生きづらいい世に送る仏教学入門―』三明智彰講述(二〇二四年 多摩親鸞講座)という本に出会いました。九州大谷短期大学学長の三明智彰<sup>はるとしあき</sup>という方が、東京、多摩で開かれている仏教の市民講座で、カルトの問題など現代社会と宗教について話された講義録でした。その講義の最後で、「娑婆と浄土」ということを手がかりにして仏教の教えを尋ねるといふ話をされています。三明先生のこの観点を借りて、「娑婆」と「浄土」といふ仏教の言葉を通して、仏教が教えてくれること、宗教が問いかけていることを、私自身の見方で考えてみたいと思います。

仏教に限らずどの宗教においても(あるいは無宗教の人も)、生と死、現世と死後、この世とあの世(あの世があるのかないのかも含めて)が問題になります。それは「死」が人間にとって本当に切実な問題だからです。まず、私たちが「死と向きあう現場」である「葬儀」と、葬儀に於いて私たちにいったい何が問われているか、そのことから考えたいと思います。

## 一 葬儀

近年、葬儀が随分変わりました。家族葬という形態の葬儀が非常に多くなっています。その要因や背景には、死生観の多様化、宗教意識の変化、経済的な理由に併せて、核家族化、少子高齢化や人間関係の希薄化といった社会状況の変化などが考えられます。さらにコロナ禍が、仏事の縮小化に大きな影響を与えました。

また葬儀、仏事の縮小化に併せて、「終活」ということの中で、「子どもに迷惑をかけたくない」という理由から「墓じまい」も行われています。確かに、遺された家族や近親者が困らないようにしておくのは大切なことです。しかしそれは、伝えるべきことを伝えておくということであり、大切なのはしっかりと「つなげておく」ということでしょう。人として「生きること」も、そして人としての「死」も、互いにつながり支えあって初めて成り立つのですから。

いまはもう使わなくなりましたが、以前は、通夜に参列することを「伽に行く」と言いました。伽とは、文字通り、人の傍らに誰かが加わって、夜のつれづれに話し相手をする、添い寝をする、看病をすることを意味します(『広辞苑』)。それを夜に行うので夜伽、その夜伽を夜通し行っただけで通夜なのですが、家族、近親者が、遺体の傍らで一夜を過ごすのは、ただ遺体を見守るためだけというのではないでしょう。そこには、亡くなられた方の傍らで、たとえば思い出話などで、その方の一生に寄り添う、その方の人生を改めて「問い、聞く」という意味もあるはずなのです。

この「問い、聞く」に、葬儀の本来の意義があるように思います。葬儀を執り行うことを、「弔いをする」とも言いました。この「弔う」という言葉には、背景となる言葉があります。私たちがいま使っている「とむらう」には古い言葉「とぶらう」があって、それが変化して「とむらう」に

なつたということです。そして「とぶらう」は「訪ふ」とも書きます。辞書には「とぶらう」に「訪ふ・弔ふ」二つの漢字が書かれていて、「訪」の意味は「案じて問い聞く」「おとずれる。見舞う」「詮索する。尋ね求める」などとなっています（『広辞苑』）。「とぶらう」には「訪」と「弔」がある。言い方を変えると、遺された人たちが、死を悼み、悲しみの中で亡くなったその人の人生を尋ね、生き方を問い、聞くということがなければ、本来の葬儀にならないということでしょう。そして、それは、遺された者が、自分自身も間違いなく命終えていく者として、自分自身のこれまでとこれからを、いま問い直すということでもあるでしょう。葬儀を勤めるということは、死者のためであると同時に、遺された者にとっても大事な意味があるのです。

また、家族葬の場合、かつての葬儀のような「野辺の送り」はありませんが、それでも、遺体が長年住み慣れた家から葬儀会館へ移されるとき、近隣の人々は「お別れ」と称して「見送り」をします。いわゆる一般葬の場合、葬儀会館から火葬場への見送りがこれにあたります。最後のお別れと見送り、悲しみの中で私たちは亡き人をいったい何処へ送るのでしょうか。

## 二 娑婆

「娑婆」という言葉があります。「ムシヨ（刑務所）・シャバ（刑務所の外の世界）」と言ったりしますが、もともと仏教の言葉です。いま暮らししているこの世、「現世」のことを言います。古いインドの言葉「サハー」の発音に漢字の音（シャバ・娑婆）を当てて用いています。「サハー」は「忍耐」、「忍ぶ」ということです。「娑婆」のことを「忍土」とも言います。忍土とは、苦しみ耐え忍ぶ場所という意味です。私たちが生活して

いるこの世の中は、苦しみ耐え忍ぶ場所であるというのが、仏教の世界観です。

さらに、仏教語としての「娑婆」には、もう一つの意味があります。それは「仏陀・釈尊が現れて人間を教化する場所」という意味です。つまり、仏陀は苦しみ耐え忍ばなければならぬこの世界の中で、その苦しみを生み出す根本を教えて、本当の自分にうなづくことのできる真実の生き方を説いたというのです。眼前にある苦しみ・悩み・迷いは、真実に出会う糸口だというのが、仏教の教えでもあるのです。

## 三 三界と六道

そこで、この世の苦しみがどのようなものであるかということをお教えるのに、「三界」、「六道」の教えがあります。

三界は、この世の中を「欲界・色界・無色界」の三つの世界とみる見方です。「欲界」は、文字通り、欲につながって苦しむ迷う世界です。私たちがいま生活している「ここ」が、まさにその世界でしょう。「色界」、欲はないけれども物にとらわれている世界です。美術館で名画を鑑賞しているときなどがそれにあたるといえます。「色」という言葉は「物」を表します。「無色界」、物へのとらわれのない心の世界です。物へのとらわれは超えていても、自分の心が自分を苦しめるということがあります。迷いを離れられないのが心の世界です。このように仏教では、三界すべて迷いの世界ととらえます。

その三界の中を迷うありさまを、詳しく説明しているのが六道です。

「地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天」のことを言います。

「地獄・餓鬼・畜生」、この三つが「三悪道」です。「地獄」は、怒りと恨み憎しみの世界。傷つけ、害し、殺しあう世界。「餓鬼」は、貪りの

世界。欲の世界。次に「畜生」。畜生というとすぐに動物のことと思ったり、「コンチクショウ」などと相手をののしったり、憎らしい時に使う言葉のように思いがちですが、ここでいう「畜生」はそういう意味ではありません。自分自身のあり方に深い反省を促す教えの言葉としての理解が必要です。

「畜生」は、広い意味で、やしなわれて生きている生類を意味します。仏教では道理を知らない愚かさを「愚痴」と言いますが、「畜生」という生き方は、「愚痴」すなわち道理を知らない愚かさから、自分を絶対化して生きる人のすがたであると教えられています。それは何を意味しているのかというと、私たちは自分の立場でしかそれぞれのことが見えぬ、そして自分が知り、自分が考えたことが一番正しいと思い、周りの立場がまったく見えていないということがある。そういう問題が、ここで言われているのです。やしなわれてる生き物が囲いの中のことを知らないように、自我という自分自身の囲いに無自覚で、自分の思いの中だけで生きています。自己主張だけがあって、通いあうということがない。そのことが何も気にならない。むしろそれが当たり前であるかのようにふるまう。そういうあり方が畜生という言い方で教えられているのです。『涅槃経』というお経では、「無慙愧は名づけて人とせず、名づけて畜生とす」として、無自覚で恥じることをない人を畜生と表現しています。

地獄、餓鬼、畜生の世界は、善悪の業によって堕ちていく世界です。それは、現代の視点で考えると、死んだ後に堕ちていく世界ではなく、私たちの行為がそういう世界をつくっていく、この世界が、地獄にもなり、餓鬼、畜生の世界にもなることを表しているのでしょうか。極端な主張が対立と分断を生み出し、戦争さえ引き起こすことは、今の私たちの世界が如実に示しているのですから。

つぎに「修羅」。「修羅場」という言葉があるように、血なまぐさい闘

争の世界です。

それから「人」。私たちのいる世界です。生まれた以上かならず死ななければならぬ無常の世界、苦の多い世界ですが、では苦の多い限られた人生をどう生きるのか、それを考えるのが人です。私たちが教えにあう世界です。

「人」の上にあるとされるのが「天」。楽しみの世界。肉体的、精神的両方の意味で快樂の世界。しかし欲望には際限がないから、天の世界も迷いの世界であると、仏教は教えます。

ちなみに、亡くなることを「天国に行った」と言ったりします。お葬式のお別れの言葉で「天国で安らかに眠りください」と言っておられるのを聞くこともあります。仏式の葬儀でそんな言葉を耳にすることがあります（もちろん「浄土に往生する」というのが仏教の基本ですが）。テレビなどでも「天国」という言葉によく出あいますから、「亡くなった人は天国にいる」というのが、現代の社会通念ということでしょう。そしてその



蘭 宇野裕章画



「天国」は、キリスト教の「神の国」とも違うようです。ただ仏教で天国というと、文字通り「天（四天王、帝釈天など）が住まう国」・「天界」の意味で、六道の一つで、天国もまた迷いの世界であるということになります。

いずれにせよ仏教では、三界と六道を説いて、人と生まれた苦しみは、深く重く、地獄や餓鬼畜生の苦しみにまで及ぶものであること、その欲望は、天上界を望むほど果てしないものであることを示し、それらすべてが迷いの世界であると教え、私たちに自覚を促します。そして、迷いを超える世界、三界・六道の外にある世界として、浄土が説かれるのです。

## 四 浄土

「浄土」には、「①煩惱を離れて、さとり境地に入った仏や菩薩の住む清浄な国土。煩惱のけがれを離れたきよらかな世界。仏のおられる世界。仏の国。②西方にある極楽国土。安養・安樂国・樂邦などともいう。③仏国土をきよめること。」の意味があります（『広説仏教語大辞典』）。浄土というと私たちはまず②の意味の浄土、すなわち阿彌陀仏の浄土・極楽国土を思い浮かべるように思いますが、ここではまず①の意味での浄土の理解から始め、次に②と③の浄土の意味を考えたいと思います。

「成仏（死ぬことではなく、仏に成るといふ意味）」という言葉があるように、仏教（大乘仏教）では、仏は人間が成るものとされます。ここがキリスト教やイスラム教と決定的に違うところです。キリスト教、イスラム教では、神は人間が成るものではありませんが、仏教では、もと釈迦族の王の子であったゴータマ・シッダールタが、出家修行ののち「さとり」を得て、仏陀（覚者）・釈尊と成ったように、釈尊のほか数限りない

人が、仏や菩薩（さとりを求めて修行する人を菩薩と言います）に成り、人々を教え導いていると説きます。そしてその仏、菩薩の住む世界を浄土というのです。

ですから、仏教では様々な仏・菩薩と様々な浄土が説かれることになります。代表的な浄土に、阿彌陀仏の「西方極楽浄土」、釈迦仏の「西方無勝世界」、薬師仏の「東方淨瑠璃世界」、毘盧舍那仏の「蓮華藏世界」、弥勒菩薩の「兜率天」、観音菩薩の「普陀落山」などがあります。

このように浄土の語は、大乘仏教において仏の世界をさす言葉として広く用いられるのですが、平安時代後期以降に浄土教・浄土信仰が広がるにつれて、浄土は主として阿彌陀仏の極楽浄土をさす言葉として理解されるようになります。

日本に浄土信仰が広がる大きな要因となったものの一つに、比叡山の僧、源信が九八五年に著した『往生要集』があります。阿彌陀仏の極楽浄土に往生するために必要な経文を集めたものですが、その中で迫力に満ちた描写で地獄の様相が説かれ、同時に浄土往生を求めることの大切さが説かれることによって、日本人の来世観に地獄、極楽の思想が植えつけられたと言われています。

その『往生要集』に「臨終行儀」が説かれています。「臨終行儀」とは、人が死を迎える際に行う儀式のことを言うのですが、源信がそれを詳細に記したので、当時広く知られるようになりました。昨年のNHKの大河ドラマ「光る君へ」の重要な登場人物の一人、藤原道長も臨終行儀を実践しました。『栄花物語』「つるのはやし」には、死を覚悟した道長が、極楽浄土に往生するために全力を尽くす姿が描かれています。臨終に際して道長は、法成寺の阿彌陀堂に籠り、他人を寄せ付けず、飲食を拒否し、家族と顔をあわせることも避けようとしません。危篤に陥ると、立てた屏風の西の面だけを開けさせて、枕を北、顔を西に向けて横になり、阿彌陀仏

と向き合います。仏の姿以外のものは何も見ない、仏の声以外のものは何も聞かない、後生のこと以外は何も思わないと心に決めて、僧侶たちの読経の中、手には阿弥陀如来の手から引かれた糸を握り、口に念仏をととなえながら生涯を閉じたと言われています。

ここに語られているのは、臨終に「来迎」をたのむという信仰のすがたです。臨終の際に、阿弥陀仏がたくさんの菩薩たちを従えて迎えに来て、極楽浄土へと導いてくれることを願うのです。これが平安時代の浄土信仰のかたちでもありました。そしてここでは、浄土は死後に往く世界ということになります。そうになると、浄土は（もつと広い意味では仏教は、宗教は）、死後の救いのためにあるのか、そのためだけにあるのか、ということになるかと思えます。いまの生き方にかかわることとしての浄土、仏教、宗教という問題です。

ここで注目したいのが、浄土には、浄土がたてられた理由、願いがあるということ。阿弥陀仏の極楽浄土を説いた『仏説無量寿経』に、浄土建立の理由と願いが、法蔵菩薩の「物語」として説かれています。阿弥陀仏は、もとは法蔵菩薩という名の菩薩でした。仏は、もとは菩薩です。先に見たように、菩薩とはさとりを求めて歩む人のことを言います。法蔵菩薩は、苦と迷いの中にいるすべての人を必ず浄土に救いとりたいという願いを起こします。これが浄土建立の理由になります。本の願い「本願」です。そして、その願いを実現するために、修行をします。その修行により、「本願」は成就し、法蔵菩薩は阿弥陀仏に成ったと説明されています。この菩薩の行は、自らが身を置く国土を、自身の願いにふさわしい国土にするために、「土を浄める」という意味を持っています。浄土は、その願いと行によって建立された浄らかな世界であり、すべての人びとを平等に救いとる場所としての「仏国土」なのです。

極楽浄土をこのように理解し、その意味を受けとめようとするなら、浄

土建立の根本となる法蔵菩薩の「願い」と、それを釈尊が『仏説無量寿経』で浄土建立の物語として説いた「理由」を、現在の私たちの視点で問い直さなければなりません。それは、翻って、私たちの自身の人生の根本の願いを問うことであり、人として生きる意味を問うことであり、救われるとはどういうことかを問うことでもあります。人間を問うことが、浄土に繋がっているのです。さらにそれは、浄土から「この土」を見る、つまり、私たちが今生きている世界の現実を問い直すことでもあります。

現代社会、人間関係の難しき、煩わしさから、生きづらさと感じることも多いと思えます。けれども私たちの世界は、どこまでも共に生きる世界であり、つながりの中で人として生きている世界です。個人として生きるだけではなく、共に生きる人間として、社会、世界を生きています。では、人として生きるとはどういうことなのか、人間として救われるということはどういうことなのか、それを宗教は問うているのではないのでしょうか。



牡丹 宇野裕章画

## 「私の画業と文化財の模写保存修復」

愛知県立芸術大学 名誉教授

秦 誠

## 愛知芸大に入学

いまから54年前、大阪万博が開催されました。その年、1970年（昭和45年）に私が大学に合格したお祝いに、家族で万博見物に行ったことを昨日のように思い出します。

私は所謂、団塊の世代最後の生まれで受験生も多く、さらに入学定員が少ない公立の芸術系大学の受験倍率は大変高く、現役での合格は叶わず、1年間実技試験に向けて京都の美術受験予備校に通い、石膏デッサンと着彩画を学んで、ようやく愛知県立芸術大学絵画科日本画専攻に入学しました。

愛知芸大は、昭和41年に名古屋市の東隣、現在の長久手市に開学した美術、音楽の総合芸術大学で、私が入学した昭和45年当時は、大学院修士課程が開設されたばかりで施設、設備も新しく、各学年にアトリエと呼ばれる教室があり、午前はそこで日本画を制作、午後は講義棟で一般教養を受講し、その後またアトリエに戻り制作に励むという日々でした。

日本画専攻は1学年10〜12名の少人数で、日本画実技を指導するのは後に文化勲章を受章された片岡球子教授の他、助教2名、講師1名の体制で、学年ごとにカリキュラムが組まれ、日本画制作を中心に材料研究と古典絵画の模写を習得するという内容です

日本画とは、岩絵具と呼ばれる天然や人造の岩石や土、貝殻等の粉末に接着剤としての膠を混ぜて和紙や絹に描くという日本古来の絵画技法です。チューブに入った油絵具や水彩絵具と異なり、岩石を砕いた砂粒のような色材を、動物の皮や骨から抽出した膠の水溶液を接着剤として、適量に混ぜて画面に塗って行くわけですが、その時の膠の濃度で画面がひび割れたり、剥げ落ちたりする難しい材料です。また、和紙や絹も自分が描きたい目的に合わせて滲み止めの作業や補強のための裏打ち等の下準備が必要となります。このような日本画材料の扱い方や制作技法を4年間学び一般の大学の卒業論文にあたる卒業制作（150号）を1点制作して卒業となります。

## 制作と模写の両立

私は卒業後山崎に戻り、中学か高校の美術の教員として後進の指導をすることを考えていましたが、教授の勧めもあり、さらに大学院修士課程に進学することを決心しました。

一般的に画家として世に出るためには、個展や公募展で自身の作品を発表し、認められる必要があります。当時の大学の規定は、修士課程になって初めてそれが許されることになっていたので、進学後は全国公募の創画展に出品し、2年の修士課程修了後、さらに1年の研修課程を経て、日本画研究室の非常勤講師に採用され、公募展も創画会から院展に変更し、画家としての日本画制作と古典絵画の模写制作を続けることとなります。



開学から間のない愛知芸大には教育参考資料が乏しく、日本画研究室では日本画の古典を模写することで日本画技法の習得と、その模写作品を大学の資料として活用することを発案し、1974年（昭和49年）から法隆寺金堂壁画の模写事業を進めていて、幸いなことに私はその模写事業に参加する事が出来ました。

奈良の法隆寺金堂壁画は焼損以前、国宝に指定された日本画の原点とも言える優れた作品です。しかし、この壁画は昭和24年に火災により焼損したため、現在の金堂には朝日新聞社が文化事業の一環として、当時の一流画家達に依頼し、焼損前の姿を再現した模写作品が納めてありますが、一般には公開されていません。日本画研究室は、当時の資料を朝日新聞社のご厚意により譲受、愛知県から予算を頂き、県の委託事業としての模写事業が始まったわけです。

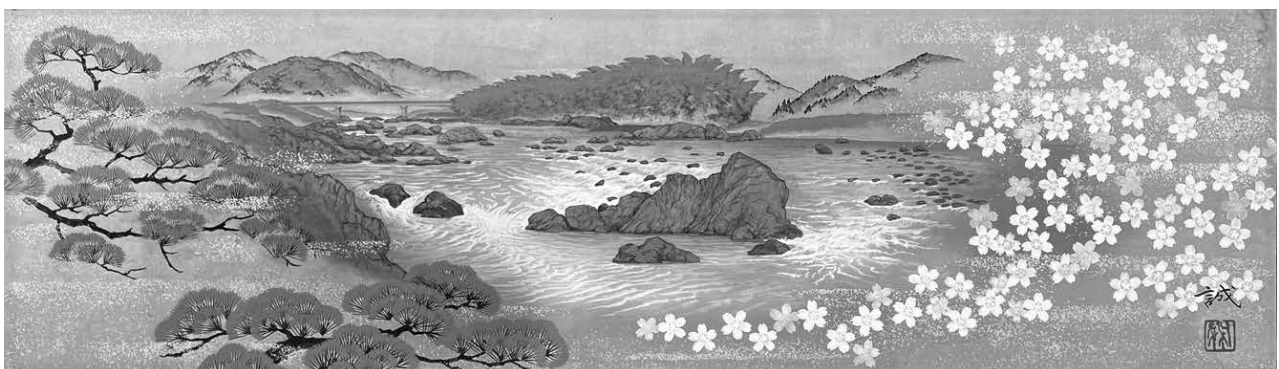
それから14年の歳月を経て、1988年（昭和63年）12面の模写作品が完成し、大学内に新たに建てられた、法隆寺金堂壁画模写展示館に常設展示され、広く一般公開されています。

その展示館には模写保存修復室があり、法隆寺壁画模写事業以降、我が国の国宝や重文の作品である高松塚古墳壁画や釈迦金棺出現図等の模写事業を現在に至るまで継続して行っています。

## 現状模写と復元模写

模写の技法は大きく分けて現状模写と復元模写という二つの方法があります。

国宝や重文の作品は、その貴重さから展示、公開には厳しい規制がありますが、現状模写というのはそれらの作品の現在の姿、汚れや傷みもそのままに模写を行う方法であり、その模写作品を本物の代わりに公开展示す



山崎高等学校体育館の緞帳の原画 秦誠氏制作

ることで貴重な作品の劣化を遅らせることが出来、結果として文化財の保存に間接的に役立つという大切な使命があります。

一方、復元模写というのは、現存するその作品が描かれた当初の状態に遡って模写するという方法で、描かれた当時の材料や技法の研究が必要不可欠です。

蛍光X線や光学顕微鏡等の科学的な調査を行って、その作品に使用された素材、顔料や紙、絹等を特定し、また描かれた当時の技法書等の文献を研究し、それらをもとに同素材、同技法の手法で行うことが必須となる模写で、現状模写と比べ、より高度な模写となります。

現在、名古屋城天守閣の隣に復元建築された本丸御殿には、狩野派の画家達が描いた金箔地に虎や花鳥などの障壁画や天井画を、描かれた当時のままに復元模写した作品を各部屋に設置、公開していて、創建当時の絢爛豪華さを体感するため、多くの人々が訪れて名古屋の観光の一つの目玉となっています。

私は非常勤講師として大学の模写事業と名古屋城の模写事業に関わりながら、自分の画業としては毎年院展に出品を続け、さらに東京、大阪、姫路等での個展や多くのグループ展にも発表するという忙しくも充実した日々でしたが、2000年（平成12年）に愛知芸大の常勤講師に採用されたことで、より忙しくまた大学での責任も大きくなってきました。それというのも1987年（昭和62年）から始まった大学改革の動きが、まずは国立大学の法人化（2004年）へ、更には公立大学にも愛知県県立の大学3校を統合して法人化するという流れが押し寄せてきた時期で、学生の指導と自分の研究以外の事務仕事や会議などに時間と労力を費やすことが多くなり、さらに教授就任後は、芸術教育学生支援センター長を拝命して大学の改革や予算、運営等の重要な会議に参加する立場になったからです。最終的に愛知芸大は法人化されたものの、その独自性が認められて他大学との統合

を免れました。

## 文化財保存修復研究所

法人化された大学は、それまでの教育、研究だけでなく社会的にも貢献し、また外部資金を積極的に獲得する事など、その存在意義が強く求められます。そこで日本画専攻が進めてきた古典絵画の現状模写、復元模写を軸に、絵画の修復、保存事業を行う研究所の設立を立案、法人の予算を獲得して、2014年（平成24年）に文化財保存修復研究所を立ち上げました。

この研究所では、貴重な文化財を後世に継承、再生すること、さらにそれに関わる人材の育成を通して、地域文化の発展に貢献することを目的として文化財保存に関する研究及び調査、模写・保存修復事業を行っています。

古来より日本画は、主に絹や和紙に描かれ、その後、表具師が補強のための和紙の裏打を施し、掛け軸や襖、屏風に仕立て上げられてきました。それらの作品は、外部からの要因や時間の経過とともに傷んでいくことが避けられません。保存修復とは簡単に言えばその傷んだ作品を蛍光X線などの科学的な調査のもとに、古くなった裏打ちの和紙を取り除き、欠損部分を補って新たに仕立て直すことです。

現在、研究所は設立当初にNHKや新聞社に取り上げられたこともあって、仏画等の古画の修復事業と地方美術館等から依頼される模写・調査事業などを中心に、油画の修復分野にも広げ、文化財保存研究所として順調にその活動を進めています。また、修復事業以外に文化財関連のシンポジウムや講演会、リカレント教育など文化財の保存修復に対する理解を広めるための様々なプロジェクトを積極的に開催しています。

## おわりに

「人類の進歩と調和」というテーマで開催されたエキスポ70から半世紀あまり、2025年には再び万博が開催されようとしています。AIやドローンなど新しい知見やテクノロジーとその産物に人々は目を見張り、また魅了されます。その一方で、古くからある全国各地の伝統的な産業は、その素材入手の困難さや、技術を受け継ぐ後継者不足に悩んでいます。日本画や修復に使用する材料である和紙や筆、刷毛、膠なども同様です。

日本の貴重な文化財は、それらの伝統的な技術や人材によって連綿と受け継がれ、守られてきたのです。新しいものだけでなく、日本の文化遺産を引き継いできた伝統的なものづくりとそれを支える人達にも目を向けてほしいと願っています。



### 略歴

- 1950 兵庫県宍粟市山崎町に生まれる
- 1976 愛知県立芸術大学大学院美術研究科  
日本画専攻修了
- 1982 法隆寺金堂壁画模写に従事
- 1993 名古屋城本丸御殿障壁画復元模写に  
従事
- 1995 個展 名古屋松坂屋 銀座松坂屋  
ヤマトヤシキ (姫路)
- 1996 個展 東武百貨店 阪神百貨店
- 1997 山種美術館賞展に招待出品
- 2002 西安歴史博物館 (中国) と陵墓壁画  
協同調査
- 2004 個展 山陽百貨店
- 2005 愛知県立芸術大学日本画専攻教授
- 2009 個展 名古屋松坂屋 銀座松坂屋
- 2014 愛知県立芸術大学文化財保存修復研  
究所所長  
川島織物と産学協同プロジェクト法  
隆寺壁画綴れ織り再現
- 2016 個展 日本橋三越 名古屋三越
- 2017 個展 山陽百貨店
- 2020 個展 日本橋三越 名古屋三越

### 現在

日本美術院 特待  
愛知県立芸術大学 名誉教授  
NHK文化センター名古屋 講師

# 短歌

## 生きる喜び

### 山崎文化大学短歌部

森元 満子

物すべてに恵まれて、何不自由なき現在にあつては想像もつかないであらう昭和の時代「この坂を超えたなら幸せが待っている。そんな言葉信じて越えた七坂四十路坂」と歌に励まされて歩み来た私の人生は、歌のようにには行きませんでした。でも振り返り見る時、よくも今日までの苦難の道乗り越えてきたと自分を慰め、この過去があつたればこそ、勇気を持って前進できたのだと思ふとき熱い涙がこぼれます。

いつの間にか九十歳を迎え、びっくりですが、今は現在の生活に感謝感謝の毎日です。

縁あつて老犬(文大)に入学し、何も分らない私に短歌部を勧めていただき、皆様の温かい励ましに支

えられて三十年近い年月を三名もの大先生方に支えられ今日の日を迎えております。

この短歌部の皆様の支えと励ましは本当にうれしく、わが人生はがらりと変わりました。今まで見向きもしなかつたすべてのものが楽しい短歌になるのでとてもうれしいです。

毎日を元気で明るく楽しく、多くの皆様と色々なお話を交わすことも多くなり、一日があつという間に過ぎていきます。

年を重ねて体や頭、そして心のリハビリにと短歌の良さを教えてくださった先生方や多くの友の励ましがあつたればこそと、生きている喜びをひしひしと感じております。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

皆々様も色々心掛けていらつしゃると思ひますが、今一度「何事にもチャレンジ魂でハッピーに心のリハビリ生きてく宝」だと思つて、一度文大の短歌部にも遊びに来てくださいね。人生百歳時代を楽しみましょう。

山の端に落ちし夕日が道の辺の垣根にとどむかすかな余光  
撫で上げし手櫛に細き乱れ髪目が  
手編みの帽子が覆う

森元 満子

### やまさき文化大学短歌部詠草

耕せば後からカラスが就いてきて  
「かー」と一声残し飛び去る  
ネギ坊が天突く天突くお祭りだ掘り  
残したる畑の隅で

大部 正勝

「またネ」との言葉は嫌と涙ぐみ車  
に乗りて帰り行く児や  
ライラックふと立ち止まり匂いかぐ  
カメラの中に在りし夫見る  
緑なす水穂の続く畦道を白き影行く  
あれは友かな  
梯子獅子無事終るまで手をあわせ獅子  
の雄姿も母そぞろなり

井口 照子

藪蔭につがいの鳥が口笛を吹くがに  
鳴けり朝の静寂に  
菖あやめ咲く庭のドクダミ匂いきて日陰  
に白き十文字の花

朝まだき椿の雪をはらいをりたわみ  
し枝を気遣えし父が

稲田 万里

唐突に握手などして病室へやを出る外は  
青空夫は無事なり  
彼岸花秋の気配を知りぬればすつく  
と立ちて咲き初めしかな  
夕暮れの刈りとり終えし畦の道稲藁  
の香の満ち満ちており

竹添 和子

「母ちゃん」と一度でいいから呼んでよ  
ね犬の目をみつめて本気のおぶ  
やき  
栗を手てに今朝拾つたと微笑んで秋の  
便りを友運び来る  
ねこじやらし活けて人待つみたき園  
我をいざなう民話の世界

谷口美智子

中秋の月見て君が「きれいなね」と言  
えばうなずき君を見るかな  
笑顔にて集いランチはカレーライス語  
りあう日を「カレーの日」としよう  
毎朝の妻が作れるおにぎりの塩按配  
は微妙に異なる

中谷 賢二

ひとりずつ小さなジャガイモ洗い終  
え母さん真似て煮っころがしを  
前のめり後ろ手組んで歩いたら声が  
飛んでくる「母さん止めて」  
三月の霞がかかる山腹に「ここに  
いるよ」と山桜咲く

福元千代子

浮き雲に心うばわる今日の日を楽し  
み勇む湖西線  
「ニーハオ」とほほ笑みてよりジェ  
スチャーで心かよわすコスモス畑  
蓋とれば香り漂う今晚の大なるご馳  
走松茸ご飯

森元 満子

寒行をつとめた末の其の先に感じる  
ことは我が血の温み  
大晦日年桶飾りの餅づくり聞けばよ  
かった今亡き父に  
寒稽古昨日の雪も今朝は止み尼子お  
ろしの風も弱まり

高橋 利典

### 一葉会詠草

ユネスコの世界遺産に関白記・誤  
字・脱字・塗りつぶしも有りて  
日ごとなす念仏の回数のみを記し  
るなり 病重しに  
何げなく見るスマホには関白記秋に  
公開とあり会うべし

植木 洋子

背戸の山かやの株間に鹿のかお枯葉  
に紛れる冬毛となりて  
樺は黄に楓は錆朱と散りゆけり秋無  
くて冬すだま背せなに来  
朝陽受けひとつ雫は木の末に須臾しゆの  
命の光を反す

森下 速子

宇品港より征きて還らぬ父のこと孫  
子に語る 又も語りぬ  
ひっそりと木陰にありて育ちいる茗荷みぎわ  
荷がを見にゆく朝なあさなに  
最上山友と歩めば時雨くる濡れた落  
葉の活きいきとして

前野ゆきこ

老いの日の願いのひとつ遠く住む吾  
子にひとたび逢いたきものを  
老い二人とり残されし心地して子等  
に次ぎつぎメールを送る  
連れ添うと言うよりむしろライバル  
の如く向き合い金婚迎う

武野寿々代

いい笑顔 涙の顔も受けとめし此の  
三面鏡と六十四年  
生駒の丘 見知らぬ人と隣りつつ足  
湯たのしむ孫曾孫らと  
もう少し遊んでいたそな枯れ葉二枚  
花芽ふくらむ木蓮の枝

谷林 立身

冷房へやの室に温かき紅茶のむ此の平安  
のいつまでならむ  
かさかさ乾きし球根うずめゆく一  
つひとつに春を約して  
ようやくに土にもどりし球根の息づ  
くらむか月の夜ごろを

山崎 智絵

## 宍粟市山崎文化協会ホームページ ご紹介

宍粟市山崎文化協会及び加盟文化団体の活動を紹介しています。

- 主催事業「春の芸能祭」、関連事業「秋のふれあい文化祭」、「しそこの森合唱祭」等のステージの様子（動画配信）
- 機関誌「やまさき文化」を電子配信（バックナンバー含めて配信）
- 加盟団体の活動、機関誌の紹介（山崎郷土研究会「郷土会報」バックナンバーの電子配信）
- 関連事業「山崎八幡神社新能」紹介
- 「しそこの逸話」動画配信、etc.

<https://www.yamasaki-bunka.org/>

宍粟市山崎文化協会

検索

「宍粟市山崎文化協会」で検索してください





# 俳句

## 山崎俳句協会

### 佐用町へ春の吟行

五月十三日

青嶺句会 田中 良子

五月十三日、昨夜からの雨も上がり、新緑漲る中を隣町、佐用町への吟行へ。

朝九時半、防災センターを出発して、目的地「笹ヶ丘荘」へ十一時すぎ着きました。

・新緑の中へ中へと吟行に

久子

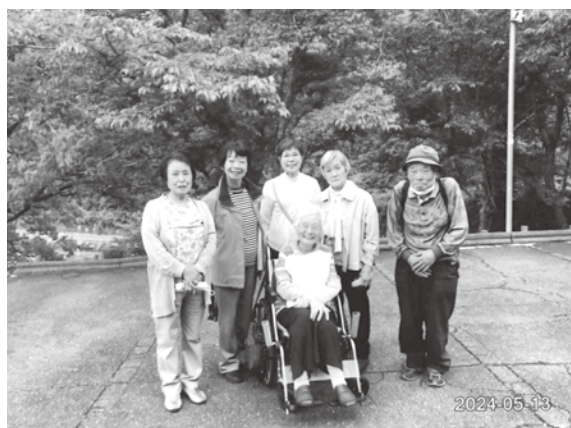
途中、車中からの景観とお喋りに一寸一服しようかとコーヒータイムをとりながら談笑する。

・若葉燃ゆ一両電車吸ひ込まる

チエノ

・緑なすグラデーシヨンの美しき

美保子



新樹もえる中を割って智頭線のカラフルな列車が抜けていく。六粟市と佐用町は隣町で同じ様な山国でもあり、親しさを感じながらも私達の町にはこんな光景は見られないのが一寸残念。十二時、今日の楽しみのみ料理「笹ヶ丘」昼膳をいただく。

・山荘で旨しと食す鱧の天

とみこ

・昼膳のみどり謳歌し笹ヶ丘

良子

美味しく和やかに食事を終えて本番の句会に入り、批評も交えながら予定通りの時間に終えることができました。

・緑立つ丘に白鷺鮮かに

緑山

帰路の途中、上月城の案内看板に、以前NHKの「大河ドラマ」の「黒田官兵衛」の義姉が嫁ぎ城を守ったと聞いた事を思い出し、時間的に立寄りできなかったのが一寸残念。無事、予定通りの春の吟行を終えることができました。

当日欠席者の俳句

・白木槿咲き継ぎ散り継ぎただ静か

・宿坊の朝餉は熱き根深汁

駆雲



## 青嶺句会詠草

・盆用意して居て九十路はや疲れ  
・はからずも好きな葛餅もてなされ

門積 緑山

・寝返りを又くりかえし秋暑し  
・立ち漕ぎの自転車追い抜く赤蜻蛉

原田 駆雲

・人影の無き商店街秋暑し  
・子らの目を集めて西瓜切り分ける

鳥羽チエノ

・木犀の香も包み込み夜具入れる  
・たわい無き会話弾みて小春縁

田中 良子

・大漁旗靡かせ帰港いわし雲  
・縁に座し夫と二人の良夜かな

杉山美保子

・六十路来て七十路も見し返り花  
・手際良き古寺の庭師の冬構

中尾とみこ

・風呂上り新涼求め小窓あけ  
・秋彼岸姉父母のもと旅立ちて

島本 久子

## 山脈句会詠草

- ・年の暮れ今年別れし友しのぶ  
清水 省三
- ・落葉ふむ音も静かや冬の道  
重田 陽子
- ・弁天は姿とどめず蓮は破れ  
重田 陽子
- ・茎桶の箍がゆるみし三回忌  
谷口 昭子
- ・優し顔残して眠る栴の菊  
鳥羽チエノ
- ・又しても遺影の前や菊白し  
鳥羽チエノ
- ・ガザの子の深き愁いや冬に入る  
鳥羽チエノ
- ・新松子稜線やさし寝釈迦山  
鳥羽チエノ
- ・サクツシュに語る冬日や娘の手製  
西田 宣子
- ・一句一句拾う吟行雨紅葉  
西田 宣子
- ・時は満つ春光の中君は発つ  
野谷 百々
- ・草餅の甘さに浮かぶ母の笑み  
野谷 百々
- ・夏落葉妹の涙とともに散る  
高井 麗子
- ・墓洗ふ日頃の無沙汰わびながら  
高井 麗子
- ・枯葉踏む音も楽しき遊歩道  
岡田 福代
- ・この森の静寂を好み小鳥来る  
岡田 福代
- ・夏草と格闘のちの木陰かな  
岡田 福代

・春待つ樹の潜む力をなでてみむ  
澤田 豊子

## 五色俳句会詠草

### 「五色の春秋」

- ・手炙りの置火に集う村とんど  
重田 陽子
- ・つくばいに松葉折込む厚氷  
重田 陽子
- ・筆取りて連歌反歌の梅見宴  
福田 悦子
- ・春空に音色極めし小澤逝く  
福田 悦子
- ・手水鉢色つややかに椿落つ  
矢口 智春
- ・春雷や史実の残る城址門  
矢口 智春
- ・花薬の降りて狭庭を染めにけり  
榎谷 睦美
- ・青春に戻す再会花筵  
榎谷 睦美
- ・青々と疎水へ流る湖の初夏  
角野桂治郎
- ・黄の薔薇や元氣滲刺なる気分  
角野桂治郎
- ・十六夜の月に添ひたる星ふたつ  
木村 優子
- ・桐一葉寄り道をせず急ぐ帰路  
木村 優子
- ・福耳をくすぐる話走りそば  
中澤 一紅
- ・一筆箋走り書きする星月夜  
中澤 一紅

・紅葉散る四十七士の石像に  
角野 慶子

・転ばぬが命ながらふ冬日向  
角野 慶子

・兄弟は阿吽の呼吸零余子飯  
福元 敦子

・玉砂利の白浮く釣瓶落としかな  
福元 敦子

## やまさき文化大学俳句部詠草

- ・茶の花や多き思い出里に置き  
金山 英子
- ・小鳥くる耳になじみし声高し  
金山 英子
- ・爽やかや若き庭師の巻脚半  
坂井 恵子
- ・冬ぬくし廃校今日は投票所  
坂井 恵子
- ・仏足石隠す一夜の落葉かな  
里見 和樽
- ・赤色は老人の色冬薔薇  
里見 和樽
- ・迷いつつ花を移ろう秋の蝶  
清水 省三
- ・祭り果て人氣の絶えし村の宮  
清水 省三
- ・ふたつ葉の胡麻和え甘し快癒かな  
高井 智代
- ・甘き葡萄食べればその名新品種  
高井 智代
- ・山茶花や家族五人の仮住まい  
萩原 恵子
- ・句会前焦る句作り鹿の声  
萩原 恵子
- ・一口に語る苦楽や秋紅葉  
平形 照美
- ・老い向かい終活整理秋しぐれ  
平形 照美
- ・パーティの喜々なる時よ櫛紅葉  
福井つや子
- ・施設より友が安否を問う秋思  
福井つや子
- ・冬虹に見送られつつ退院す  
宗平 圭司
- ・黄昏のバス停白き冬コート  
宗平 圭司
- ・生きたいと動く手と足冬の蜂  
宗平 圭司
- ・日差しやわらか干し大根を縮ませる  
宗平 真実



## ファミリーコンサート

宍粟市吹奏楽団

早川 佐恵子

私たち宍粟市吹奏楽団は、年に2回の演奏会を開催しています。今年も6月には山崎文化会館での定期演奏会、12月には波賀町でファミリーコンサートを開催しました。

特に印象深かったのはファミリーコンサートです。6月の定期演奏会では毎年クラシックや吹奏楽曲を中心に演奏しますが、ファミリーコンサートでは幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけるようにと考えプログラムを工夫しています。2017年からは宍粟の4町を順にまわって開催しており、今年は波賀町での開催となりました。波賀町での開催ということで、波賀中学校吹奏楽部のみなさんと一緒に演奏したり、音楽だけではなく見た目でも楽しんでいただけるようにいろいろな演出を取り入れたり、準備はたいへんでしたが、その分思い出深い演奏会になったと思います。

自主開催の演奏会のほかには、10月に「しそバンドフェスタ」へ出

演しました。宍粟市内の中学・高校の吹奏楽部のみなさんと一緒にできる年に一度の貴重な機会です。今年も市内の中学校合同のステージなどがあったりして、とても楽しい演奏会になりました。

そのほかにも地域のお祭りやイベントなどにも声をかけていただき、演奏する機会が与えられました。どのイベントでもお客様からは温かい拍手やお声をいただき、主催者のみなさまからも手厚いもてなしを受けました。

たくさんのご縁があつて、たくさんの人たちに支えられて音楽ができていたのだなと実感する一年となりました。これからも地域の皆さんに末永く愛される楽団でいられるようにしたいです。また、中学・高校の吹奏楽部の皆さんが卒業してからも音楽を続けたいと思ってもらえるような活動がしたいと思います。

## 活動十年目に

### 思うこと

宍粟山崎手作り甲冑の会

代表 小林 由佳子

もみじ祭り開催中の11月30日手作り甲冑などを纏った大人子供総勢40名余りが本多神社前に集まりお祓いを受け、鬨をあげ、隊列を整え観光客で賑わう酒蔵通りから商店街そして紙屋門・陣屋跡へ。5回目を迎えた本多まつり武者行列を、今年も行うことが出来ました。

思い起こせば、山崎の歴史を知っていたら一つの方策として「手作り甲冑を」と知人が思い立ち、会を発足して10年が経ちました。8年前の2007年4月に第1回本多まつり武者行列を挙行。並行して甲冑の数を増やす、仲間を増やす、市内外の観光イベントに参加（着付け体験等を開催）しネットワークを広げるなど走り続けてきました。コロナ禍でイベントの中止を余儀なくされながらも会員や仲間の力があつてのことです。しかし、ど

この会にもある悩み、それは活動の継続問題。会員も年々年齢を増す現実、代表である私も同様です。この会の目的を理解し継承してくれる仲間を一人でも多く増やしていかねばと焦るばかりです。5回目の武者行列を終えたたん6回目の事は重くのしかかってきます。辞めるのは簡単、しかしやめられぬ意地もあり、悩ましい問題です。

ちなみに、行列は春と秋の年2回実施しています。

春は藤まつりの頃、子供武者行列を中央通り商店街の「よいまちや」から大歳神社往復、秋はもみじまつりの頃、本多まつり武者行列を大人と子供が本多神社からお城のあった紙屋門往復となっています。



## 新潮会72年目の

### あゆみ

新潮会

藤井哲郎

終戦後物資も不足し生活も厳しかった時代に、心の豊かさを求め、人としての良識を高める場所として、また地域の文化発展に少しでも貢献できるようにと昭和27年6月に新潮会は発足しました。

設立当初は、政治、経済、教育、芸術関係など多岐の分野の方々が多数参加されています。

この傾向は現在も引き継がれ、いろんな分野で活躍された方が参加しています。

今回改めて新潮会の歴史を振り返るため「やまさき文化」を読み返してみました。昭和30年代、40年代は山崎に文化を根付かせようと多数の文化人、評論家を招いて講演会や展覧会が数多く開かれております。

それ以降も10年ごとの記念事業、5年ごとの記念誌の発行、毎年の小旅行、春の観桜会、毎月の月例会と昭和、平成、令和と時代をまたがって現在も設立当初の精神を受け継いで活発に活動を続けています。

70周年事業ではSDGsを取り上げ、地球規模での環境問題への取り組み方、私達ひとりひとりの関わり方など考えるいい機会になりました。

昨年度の事業では現会員である私達も知らなかった、42年前に作られていた「新潮会賛歌」を作曲者の塚田先生に依頼し、現代風に少し手を加えてもらい蘇らせました。

また毎月の例会では個人の健康面の話とか「新NISAの活用」、「ふるさと納税」、「市の人口減少問題」、「オレオレ詐欺などの新しい犯罪の手法」、といった地域の話題、日本社会の問題など日常的な話題なども取り上げました。

改めて思うことは、新潮会が72年間継続していることの価値、設立当初の精神が代々引き継がれていることと意義、同じ形式での運用がなされていること、そして会員各自が自己研鑽の場としていることのすばらしさです。

本年度も新潮会は山崎文化協会の一員として、皆さんと一緒に地域文化の発展に貢献したいと思っています。

二〇二四年も

ありがとう！

山崎民謡連合会

やまっ子会

石田陽子

たくさんの敬老会、施設への訪問、イベントの参加、山崎連合、姫路連合の行事への参加、各コンクールでの賞の獲得等々、本当によく頑張ってくださいました。

仕事、家事、田畑の管理、孫の世話等、目の回る様な忙しさの中、老体にムチ打ちながら、たくさんの人達に喜んでいただきました。ありがとうございます。

一つお願いしたい事は、くれぐれも道中の運転、気を付けて、転ばないよう、怪我のないよう、よろしく願います。

本年も楽しく色々アイデアを持ち寄って頑張りましょうか……。よろしく願います。



9月23日 一宮敬老祝賀会  
福知溪谷にて



# 大河ドラマ「光る君」

六粟市謡曲同好会

三 谷 恭 三

昨年、NHK大河ドラマは、源氏物語を書いた紫式部をヒロインとして、時の権力者藤原道長とのカラミを描いたドラマで、ご覧になった方も多かったかと存じます。スタートのころは今一つパツとしない感がありました。回を重ねるごとに実際の平安の歴史と重なり興味がわいてきましたし、視聴率も上がって来たようです。

さて、能楽の世界には現行曲が200余りありますが、なかでも源氏物語を題材にした曲は観世流でいうと、「葵上」「浮舟」「碁」「須磨源氏」「住吉詣」「玉鬘」「野宮」「半部」「夕顔」「源氏供養」などがあります。その多くはシテ（主役）が源氏物語中の登場人物であり、霊となって舞台に登場することとなっています。そして物語の中で書かれた多くの逸話を題材として舞台が構成されています。

なかでも「葵上」は、光源氏の正妻である葵上と愛人六条御息所との

ドロドロの確執を描いており、特に葵祭での「車争い」などは、御息所が大恥をかかされる場面もあり、舞台の最後には御息所が悪鬼となって葵上をせめ立てますが、叡山の僧の祈禱により祈り伏せられるというものです。

またこれらの曲の中で、唯一作者である「紫式部」の霊をシテとして登場させているのが「源氏供養」です。紫式部が近江の国石山寺で源氏物語を書いたという俗説に拠って、舞台を石山寺としています。ただこの曲には、大河ドラマのように道長とのロマンスは登場いたしません。作り話としての源氏物語を書いたことが罪となって、死後の世界で成仏できない紫式部の霊が、光源氏の供養をワキの僧にしてもらうことによつて、実は石山観世音菩薩が紫式部となって源氏物語の世界を描いたものであったという筋書きになっています。

大河ドラマの影響もあつてか、このところ源氏物語を描いた能楽が全国的にも多く上演されてきました。このほかに能楽には平家物語や漢籍に依拠する曲目も数多くあります。どうか皆さんも能楽堂に足を運んでいただいで、このような歴史

を感じながら幽玄の世界に浸ってはいかがでしょう。

## 「平安京の驚き！」 — 京都の歴史 ロマンを歩く —

山崎囲碁同好会

三 宅 哲 朗

私が「京都歩き」に嵌まったのはまだ会社勤めの年齢であつた。いつも休日になると朝早い電車に飛び乗って途中駅を乗り換えながら、京都は出町柳駅に到着することになつて「京都歩き」を始めていたからこの出町柳が出発点であつた。

会社勤務を定年退職したあとは、もう自由の身であり、名所旧跡はいうに及ばずその日をその日に足がむくまま気が向くまま動くことができたのはまことにハッピーというか有難いことだつた。

私が「平安京の驚き！」——京都の歴史ロマンを歩く——という本を著したのは、こういう「京都歩き」から始まっているのであつて、そこ

にはいにしえ人たちの力強い生きざまが私の精神とその行動力を見守つてくれているからだろうと思つている。

京都を歩く皆さん、大文字山を仰ぎ見て親しみの眼差しを送るように、またサラサラと清冽な鴨川の流に悠久の時の流れを感じるように京都を歩く皆さんの歩みは一段と楽しさが面白さが増してくるはず

です。  
あなたの京都がもっと夢大きものにならんことを切に願ひしつゝ、まだ踏み見えない未知の世界と、京都の歴史ロマンを、確りと踏み締めながら進まれんことを切に願ひするものであります。

【注】このあなたは京都を歩く皆さんのことです。



土野の情繪



## 芸術で心を豊かに

六粟美術協会

清水 喜久代

私が初めて筆を持ったのは、小学一年生の夏に通い始めた中川艶龍先生の書道教室でした。今日まで続けて来たのは、中川先生はじめ飛雲会の方々、子ども達そしてこの環境を与え見守ってくれている家族のおかげと感謝しています。

私が書いている前衛書は、読める文字ではなく、漢字古典臨書、仮名古筆臨書で学んだ線質、運筆、流れ、造形等を基に、お手本はなく、自分の思うままに自由に表現し創作します。もともと大きな字を書くことが好きだった私にとって、大きな紙にほうきのような筆で書く前衛書はとても魅力的なものでした。

日常的に作品の構想を頭に浮かべている中、ポストン美術館で見た多くの作品の中で私の足を止めたのは、横長の巨大なキャンバスに両端から色鮮やかな線が射し込んでいて、中央部の七割程が白のまま残っている作品でした。何も描かれていない余白の美しさに引き込まれ、そ

れからは、余白の美しさを感じてもらえる作品作りを心掛ける様になりました。

入賞することを目標に作品を書き、表彰式だけのために東京まで行くことも何度かありました。今は時間の余裕がないこともありませんが自分の作品の前で足を止め、何となくいいなと思ってくださる方があればと思い紙に向かっています。どんなに忙しくても疲れていても筆を持っている時間は、心のより処となっています。

本美術協会には、町展に出品を始めた頃からお世話になり四十年くらいになります。洋画、日本画、写真、陶芸、漆芸、書道、様々な分野の方々の作品にふれ、お話を聞けることは、とても良い学びとなり心を豊かにしてくれる時間にもなっています。

文化・芸術を通して、豊かな心を育み心のより処を見つけてくださる方が増えればいいなと思っています。

## 合唱団に入って

六粟市少女合唱団

田岡 有未

わたしは、友達から誘われて合唱団に入ったのですが、以前のわたしは歌には全く興味がなく、人前に出るのも恥ずかしくて入団するかどうか迷ってしまいました。でも、いざ見学に行くと、みんながあなたかく迎えてくれました。それがうれしくて自然と緊張がほぐれました。

そして、入団してから歌と劇の練習を何度もやって、いよいよ定期演奏会。前半は合唱、後半は音楽劇。胸がドキドキしたけれど、一生懸命に練習したので、無事に終わりました。定期演奏会では、たくさんの人に会いに来てもらい、特に音楽劇の演技をほめてもらって自信がつかしました。

それからは、合唱団の練習に行くのが楽しみになり頑張っています。休憩時間も楽しくて、ジュニアのみんなと仲良く遊んでいます。合唱団では、定期演奏会・県の合唱祭・秋の文化祭・夢公園マルシェ・もみじ祭など、いろいろな場所で歌を歌っ

たりダンスをしたりします。わたしは、ステージで歌や演技を経験して人前に立つことが恥ずかしくなくなり、だんだん好きになってきました。私がこんなに歌を好きになったのも先生・団員・観客の皆さんのおかげです。観客の皆さんの笑顔を見ると、もっともっと笑顔で見てもらいたいし、もっともっと多くの皆さんに会場に来てもらいたいので歌や演技やダンスの練習にやる気がわいてきます。

合唱団に入団していなかったら先生や団員のみんなに出会えてないし、今頃こんな明るく堂々とできる自分にもなっていなかったと思います。誘ってくれた友達に感謝しています。これからも練習に一生懸命に取り組んでいくので、六粟市の皆さん、よろしくお願いします。



## 推しごと

山崎邦楽の会

光陽会

野村恵子

昔、ご近所には色んなお師匠さんがおられ、ものごころつく前から三味線や尺八、箏の音色が周りにあった。幼い頃は可愛い可愛いとおだてられ日本舞踊を習いましたが、段々とお稽古がおっくうになり中学生でやめた。かわりに、うたうことが大好きだったので長唄を習いはじめた。唄をしつかり覚えて、合格の押印がある譜面が増えた頃に三味線のお稽古が許された。最初は構えることすらむずかしい。左手で棹を支えつつ糸をおさえ、撥を持つ右手で胴を固定しつつ弾く。爪は割れるし肩は凝る。でも、やめたいとは思わず、祖母の音色に憧れ、追い求めながら未だ未だ修行中の現在に至る。

さて、踊りの稽古はやめたが観るのは大好きで、テレビやシネマ歌舞伎など映像で楽しむ機会も多いが、やはり演奏と踊りと芝居が生で観られる舞台は格別。とはいえチケットのお値段も格別だし田舎住まいに遠征交通費は痛く、そう何度も…とは

思いつつ、推しの中村屋さんの春秋巡業や平成中村座はもとより、「歌舞伎座でこの演目？」となると行かねばならぬ。ましてや玉三郎丈と競演ともなると従姉を誘い行かねばならぬ。勘三郎さんが五十七の若さで亡くなり早や干支がひとまわり。いつでも観に行けると思っていたら永遠に観られなくなってしまふ推しもそうだが我が年齢も鑑みねばならなくなってきた。NHK中継で玉三郎丈の「鷺娘」に見惚れてからとうに半世紀経つではないか。行ける時に行つて観ておかねば後悔する。などと独りごちつつ、諸々切符を手配し東へ向かう。

玉三郎丈は今日も絶対無比の空間掌握のオーラを放ち続け、勘九郎丈も七之助丈も四十代になり、いよいよ艶めき魅了してくる。きらめく歌舞音曲に見とれ聴き惚れるうち、知らずと指先で拍子を取り、だんだんと膝の上で手が動きはじめる。音色と舞に同調してチリトテシャンと口ずさみながら思わず踊りそうになり、はたと「雀百まで…」とはこのことかと苦笑した。

## 詩吟と人生

山崎詩舞道連盟

吟道賀堂流 篠の丸吟詠会

福井 賀龍鳳

昭和四十七年、二十三才、地元の公民館で詩吟が始まりました。十数名全員が年上で、音痴の自分は正直全然楽しいとは思えませんでした。ただ、大きな声で歌っていました。

半年、一年とやっていると昇級審査が有り、徐々に楽しいような気がして、三年、四年も経つと練習が楽しみになっていました。大きな声ですと、体の中の悩みや疲れが外に出るような気がしました。

見学に来られた方とも詩吟の悩み事を語り合い、研究もしました。また、流派が違っていても初めての土地でも、詩吟の声が聞こえて来ると耳を傾け、お話をしていました。時には知らない初めての教室の中で詩吟を歌っていました。

十年程経つて、教室がなんとなく休会しました。仕事も忙しくなり、独りで楽しんでいました。その間、多くの詩吟愛好者と交流をしていました。

十二年前、小田宗範先生からお誘



いを受け、七十五才の今も御指導を受け、楽しんでいきます。教本一冊、体一つで表現でき、なんとなく、詩中の光景が浮かびます。老若男女の制限なく、楽しい出会いが有り、詩吟が原動力になっています。

## 主人を亡くして

山崎日本舞踊の会

大園 達子

春陽会の舞踊を楽しんでいる大園達子でございます。65歳を迎えた頃、熱中する趣味もない私でしたが踊りは好きでしたので、知人からの誘いでご縁を結びました。

当時は十人程で須賀幸先生の下、楽しくおけいこに励み、時々施設訪問やイベント参加、嬉しい経験もさせて頂きました。

コロナ禍となり、自粛、高齢化、体調不良などで止むなく解散となり淋しい思いでしたが、やがてコロナ自粛もゆるみ活動を再開しました。ただ二人でのスタート。何とか大勢で練習したいとお誘いをしているところで。

そんな中、毎日元気で畑に出かけ野菜作りに精出していた主人が体調をくずし入院。先生方の手厚い治療を受けるも残念ながら他界しました。とても淋しい日々の中ではありますが、多くの想い出を残してくれている事に感謝いっぱいです。

結婚して六十年二人三脚で山越え

谷越えの生活は、三人の子供から孫、ひ孫へつながり、多人数となり、賑やかに楽しませてくれていきます。

一緒に住んでいる長男家族が色々気遣ってくれます。特に、社会人となった孫はおじいちゃんが大好きで、毎日のようにおじいちゃんとかかわった事柄を話して「こんな時おじいちゃんだったら」から始まり、その時々々の仕事を真似たり、友達におじいちゃんの写真を見せては話を花を咲かせたりしています。孫の存在が私を支えてくれていきます。今日も主人のにつこり笑っている写真に向かって「お父さんありがとう。前を向いて元気であるからね」と声をかけています。気遣いしてくれる孫の優しさ感謝しつつ、周りの人達と穏やかな日々を送ります。



## オカリナを 楽しんでます

森の国オカリナフレンズ小鳩

矢野 律子

森の国オカリナフレンズ小鳩は、文化協会に入会させていただき三年目をむかえました。十数人のグループで、色々な大きさのオカリナを使ってアンサンブルを楽しんでいます。

十一月三日はふれあい文化祭に出演し、もみじ祭りには八幡神社の能舞台で演奏させていただきました。

私達は、毎年四月第一日曜日に山崎文化会館で『森の国オカリナフェスティバル』を開催している実行委員会のメンバーです。

美しい山々に囲まれた山崎で桜咲く頃に、オカリナ愛好家を招き、演奏を楽しんでいただくという思いで始まったフェスティバルです。今年で十五回目を迎えました。毎年、全国各地より多数の応募があり、抽選により二百余名の参加者が演奏されます。前日の夜は、ゲストの演奏者を交えナイトコンサートをします。会を重ねる毎に参加者の繋がりが増し、まるで同窓会のような賑わ

いです。

フェスの当日は、オカリナ、オカリナグッズ、楽譜等、十五余りのブースが並びます。初回の頃に比べるとオカリナ製作者も増え、製作者と直接話ができるのは、オカリナの聖地ならではのフェスと参加者から好評をいただいています。

そして、今年のフェス後、素晴らしいプレゼントが届きました。ゲストで演奏してくださった田島篤先生に『森の国オカリナソング』と題して曲を作っていただいたのです。練習を重ね、機会ある毎に、この『森の国オカリナソング』を大勢の方々

に聞いていただければと願っています。

オカリナは、音を合わせるのが難しい楽器ですが、みんなで美しい響きを作ることを目標に練習に励んでいます。



# 私とポケモンGO

昭和会  
野村和男

人にはいろいろな趣味趣向がありません。私は四国の歩き遍路を楽しんでいましたが、日程や体調の関係で長らくご無沙汰しています。今夢中になっているのはスマホゲームの『ポケモンGO』です。

私がポケモンGOを始めたのは平成28年8月10日。ずいぶん長い間飽きもせずに楽しんでいるものです。毎日必ずスマホをいじりポケモンGOに興じています。こうなるとポケモンGOは完全に生活の一部となっけています。酒を飲まない日はあってもポケモンGOをやらぬ日はありません（今はドクターストップでお酒は飲みたくても飲めない身体になっていますが……）。

記録（ポケモンGOに蓄積されているデータ）を見ると、今まで捕まえたポケモンは34万匹、歩いた距離は12000km。実に四国の歩き遍路10周分です。

ポケモンGOはポケモンを捕まえるだけのゲームではありません。

捕まえたり、育てたり、戦ったり、交換したり色々な要素があり、全てデータが表示され、とても刺激的な楽しいゲームとなっています。

毎朝目が覚めるとポケモンGOのフレンドとギフト交換をします。フレンドにはギフトを贈り合った回数等により仲良し度が決まります。大親友になるには最短でも90日間ギフト交換が必要です。ちなみに私の大親友は326人です。

フレンド募集で知り合った外国の人も結構います。ウクライナの大親友とは毎日ギフト交換していました。が、ロシアの侵攻が始まって2年後に音信が途絶えてしまいました。とても安否が心配です。ゲームの世界にも国際紛争の影響が出ています。またポケモンGOでは色々なイベントが毎日のように行われています。

今私が注力しているイベントはポケモンの大きさ比べの『お披露目』です。週2回行われる大きいポケモンの自慢大会です。ランキングが発表され1位になるとメダルがもらえます。私のメダル数は350個になりました（自慢？）。

またジムにはレイドボスが出ており、みんなで協力しながら巨大な伝

説ポケモンを倒すレイドバトルも楽しみの一つです。

ポケモンGOでは令和6年度には5月に仙台、11月に福岡で大きなイベントがありました。世界中からプレイヤーが集まり大盛況でした。以前は入場制限はありませんでしたが、大混乱になったため今は事前予約の有料チケット制になっています。

仙台の経済効果は74億円、福岡も数十億円規模と云われています。妻と二人で参加しましたがとても楽しいイベントで、良い思い出が出来ました。開催地では泊まる、食べる、移動する、買う等大きな経済効果が見込めます。宍粟市でもポケモンGOのイベントが誘致できれば、凄いことになるんでしょうね。

ポケモンGOはとても奥が深く、次々と新しい要素が追加されています。

これからも私はポケモンGOを追い続けていくことでしょう。ドクターストップがかかるまでは…。

## 第44回 春の芸能祭

全自由席  
入場料無料

宍粟市山崎文化協会所属の「邦楽」「邦舞」「詩舞道」「民謡」の舞台芸術団体が日頃の成果を発表いたします。どうぞ、ご鑑賞くださいませ。

【開催日時】 令和7年5月18日(日) 12:30開演(12:00開場) 予定 【開催場所】 山崎文化会館・ホール

【主催】 春の芸能祭実行委員会・(公財)宍粟市文化振興財団

# ホップ、ステップ、 ジャンプなのか、 平成会

平成会

薄木洋明

令和も7年を迎え、元号を訂正することも、めっきり少なくなりました。

平成会はその名の通り、平成元年に発足し、一昨年、私の会長の時に35周年を迎えましたが、皆様同様、新型コロナウイルスにより公私ともに影響を受け、約3年の休会を余儀なくされており、恒例の5年ごとの周年事業は断念し、会の再開を優先する状態でした。

活動テーマを「再出発」や「再構築」などと考えてみましたが、先ずは「全員集合」と定め、取り敢えず集まることから始める状態で、昨年は上林会長のもと「ボードレス山崎」のテーマで内外の枠を取り払うべく活動して参りました。

さて、昨年平成会の忘年会があったのですが、前述のとおり会発足から35年以上たてば、会員の大半は還暦を過ぎ、ともすれば湿りがちの忘

年会を若さなのか、キャラクターなのか、今年の三渡新会長が会場中に聞こえるような闊達な会話が忘年会らしい、がやがやとした雰囲気盛り上げていただきました。あくまで皮肉でなく、いい忘年会になったと思っており、二年かけてゆっくり助走してきた平成会を飛躍に導いてくれるものと、期待しております。これからの平成会の活躍を見守っていただければ幸いです。



## ふるさとの暮しの 記憶と記録

山崎郷土研究会

志水豊章

集落にはいつのまにか子育て世代の家族が知らず知らずのうちに減少し、気が付けば後期高齢者になった団塊の世代が現役世代として頑張っている。どこの集落も十年も維持できないと悲嘆して久しい。

地域社会の崩壊、限界集落とか呼ばれ、空を抱えながら暮らしている。市は「コンパクトシティ」として中核地区に公共施設を集約し、「今後の地域コミュニティのあり方」を模索し、千種と繁盛地区をモデル地区として検討されている。

団塊の世代は戦後生まれで、幼少期は「ひもじさ」を感じながらも豊かな自然環境で伸び伸びと生き、東京オリンピックを境として高度成長期を享受して育ってきた。学生時代は「全共闘世代」、働き始めると「モーレッツ社員」二四時間働けますか?と問われながらむしゅらに家族のためと信じて働いてきた。

今となって、現役を退いて、はじめて生まれ育った地域のことを余り

にも知らないことに気付かされた。先人が営々と築いてきた集落の風習や慣行、祭礼行事や山や谷、岩の名称も「いわれ」を尋ねられても答えられない。

外にいる子どもや孫に故郷の風土や歴史、伝承が語れない。

もはや集落は消えていく運命かもしれないが、生れ育ち、終の棲家となる集落が、森林鉄道のような廃墟や埋もれてしまう遺跡になる前に、かけがえのない集落の営みの追憶を記録として残す努力をする時期にさしかかっているのではないだろうか。個々の家に残されたアルバムや八ミリ映像、そして個々の記憶を組織的に記録する努力をすることが、今を生きる者の務めになるのでは?





## 耳を重ねて

宍粟茶華道協会

上垣勝子

月日の流れは早く、いつの間にかあの人この人も大きく年を重ねてしまっています。世の中もめまぐるしく進み大きく変わってしまいました。また、ネット社会となって私にはとうてい分からないことばかりとなつて、少し考えて手を入れようと思えば子や孫たちの手をかりなくてはなりません。

「木枯にさらさらと舞う落葉師走の道を走りゆくも」の心境となつてしまします。でも少し日がたつと、口ウ梅のあまい香りにさそわれた小鳥の親子が花から花へと遊んでいる光景を目にすると元気をもらつて、私達の茶道華道のよさを思い出し、利休さんのお言葉が心に浮かんできます。

一、他人をあなどることなく、いつも思いやりが先に立つように

一、家元は親、同門は兄弟で、共に一体であるから、誰にあつても合掌する心を忘れぬように

一、道を修め、なお励みつつも、初

心を忘れぬように

一、豊かな心で、人々に交わり、世の中が明るく暮らせるように

と、このおことばを心にきざんで日々精進して、この伝統文化を継承しながら地域の人々とふれあい、健康で毎日が送れたら本当に幸せだと思います。感謝の心でいっぱいです。

また、宍粟茶華道協会は一昨年より、しそウ彩り回廊、お茶、お花めぐりとして春は桜、夏は山みどり、秋はすみきつた青空のみみじ、冬は雪見茶会と、宍粟の名所をまわつてお茶会をして一盃のお茶のおもてなしをしています。美しい景色をながめながら一服のお茶に心もなごみ、明日への元気がもらえる事と思つています。ぜひお気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。



## 出会いと学び

宍粟和太鼓アーツ倶楽部

春本英明

私が和太鼓を始めてもうすぐ十五年。私はこの二十三年の人生で最も時間を費やしてきた。長いようで、振り返ってみればあつという間の十五年は、私にとっても大きなものを与えてくれた。今の私があるのは、和太鼓との出会いがあったからだろう。

私が和太鼓を始めたきっかけは些細なもので、単に母から紹介されたというだけである。どうやら保育園の音楽会でたまたま和太鼓を演奏していたのが印象的だったようだ。私自身は特段興味があつたわけではなかったが、ひとまずやってみることにした。

小学三年生のとき、私は子供教室に入った。しかし周りには友達はおろか、知り合いすらいない。私は不安ばかりだったが、思いの外、すぐに友達ができた。毎週の練習が少しずつ楽しくなり、初めて人前で演奏したことは今でもよく覚えている。山崎のジャスコ（イオン）の二階、

エスカレーター付近の広間。演奏前に勝手に太鼓を鳴らして怒られたのは良い思い出だ。

宍粟和太鼓アーツ倶楽部はさまざまなチームで構成されている。現在私が所属しているチームは「倭音」と「弾紅」の二つだ。中学生のときに入ってから約十年、このチームで活動している。このチームでは多くの経験をさせてもらった。ライバルとも呼べる友と日々研鑽したこと、ありがたいことに毎年たくさんの出演をさせていただいたこと、プロである内海先生の舞台で演奏させていただいたことなど、挙げればキリが無いほどだ。これらの経験から、私は挑戦、努力、そして感謝の大切さを学んだ。挑戦しなければ未来を変えられず、努力しなければ自らを変えられず、感謝しなければ他人の心は動かせないということを知った。さらに、これらを実行することがいかに困難であるかを実感した。特に頑張れば頑張るほど、感謝する余裕がなくなってしまう。だからこそ、これらがより良い未来を築くと確信している。私は自分を信じて、これからもバチを振るう。

# 川柳破丸会

長川 伸介

破丸会は毎月行っている例会が三百回を数えた節目として、昨年六月に記念句集を発刊させていただきました。これもひとえに、平素よりお力添えをいただいております山崎文化協会様をはじめ、私たちの川柳を楽しみにしてくださる皆様のおかげと、心より感謝する次第です。

さて、昨年は大谷翔平選手の活躍はもとより、パリ五輪や例年以上の猛暑、また衆議院・アメリカ大統領・兵庫県知事など、選挙関連のニュースや話題もテレビ・新聞・SNS等を賑わせました。

しかし、同じニュースでもロシアとウクライナの戦争、イスラエル近辺の紛争、さらには地震・洪水・土砂崩れなど大規模な自然災害等のそれには心を痛めずにはおられません。一日も早い終息と復興、そして、安寧の日々を祈るばかりです。

今回もそういった世相の風刺だけでなく、何気ない日常の「あるある」を川柳にしたためていきますので、どうぞお楽しみください。

すぐ行くわ 返事は良いが まだ来ない

下手な句も 参加に意義あり 破丸会故郷に ウサギは消えて 熊が出る  
ばあちゃんの 腰も伸びます 盆踊り

生田大思案

その歳で 若輩者でと 言い逃れ  
二級酒も あなたと飲めば 大吟醸  
同じこと 三回聞いて 無視される  
主役より 芸の達人な 斬られ役

大村 幸融

国会に 来るべき激震 何故能登に  
田畑なし 晴読雨読の 日々過ごす  
新紙幣 汚すな隠すな 議員殿

岸本 新風

「記憶ない」 その一言で 首繋ぐ  
一振りの 香辛料で 異国感  
今日今を 明るく生きる 明日は明日  
朝ドラに 背中押されて 出勤す  
時間切れ 解決法の 一つです

黒川 花稜

当人が 現れ話題 すぐに変え  
通ぶって 生で食して 腹下し  
コップ持つ 昔は酒で 今菓  
棺桶に 花を入れるな 花粉症

清水 三省

あの世から タンス預金を 監視する  
保険金 妻は葬式 費用ほど  
ポケモンの 名前覚えて 字を忘れ  
素直さを 学べる塾は ないものか

高橋志剣家

喜寿の歳 教えてくれた 足腰が  
前うしろ しっかり見て着て うしろ  
前

大顔で 優先座席に まっしぐら  
すぐに来た 朝がなかなか 来なくな  
り

谷口 遊愉

プロポーズ あれはお酒が 言わせた  
の  
参加費と 相談すれば 不参加に  
鯉のぼり 黄砂花粉も 飲み泳ぐ  
すぐ切れる 平成令和の 赤い糸

谷口 柳幸

申告を 済ませて息切れ 税税税  
要りません お腹の肉と レジ袋  
ボケちゃった うまく乗り切る 名台  
詞

中居 絵師

安上がり 身より美味しい 鯛のアラ  
多機能も 使う機能は 一つだけ  
半分に 切ってやっぱり 全部食べ  
地球上 人の数だけ ある明日  
「持つべきは ジイちゃんだなあ」と  
孫が言う

坂東 笑雅

CMが ドラマの山場 水を差す  
酒呑んで 政治家よりも 記憶ない  
朝イチの 顔認証は 否定され  
二日酔い 迎え酒して 三日酔い  
船元 哲心

朝が来る 信じて眠る 今宵また  
強面 話してみれば 優男  
夜目遠目 天下泰平 夜目遠目  
凡人は 三人寄っても 知恵は出ず

雨漏りが バケツにリズム 打つ昭和  
ハイハイの 二回返事に その気なし  
円相場 安から高から エンがない  
「酔ってまっせん」 その言い方が  
酔っている

長川 酔伸



# 山崎・いさわ冠句会

宇田 幸夫

冷蔵庫 ただいまの後すぐ扉  
日曜日 宿題終えて爺あそば

大谷 志路

冷蔵庫 家のスーパー食材庫  
日曜日 田畑の草が待っている

為国真佐行

冷蔵庫 どんと構える台所  
日曜日 家庭菜園汗流し

内海喜代子

冷蔵庫 食生活のお友達  
日曜日 退職以降毎日が

実友 勉

冷蔵庫 信用禁物早よ食べよ  
日曜日 安息日とは名ばかりで

谷笹 まや

冷蔵庫 満員御礼無駄あふれ  
日曜日 子らの声なし村静か

宇田 幸夫

冷蔵庫 賞味期限が目白押し  
日曜日 山深くしてアマゴ釣り

入江 敬一

冷蔵庫 消費期限どれ食べよ  
日曜日 朝寝坊してあわてる身

宇田 和代

冷蔵庫 過信するなど言い聞かせ  
日曜日 天井見つめまだ早い

嶋津 千里

冷蔵庫 奥から出てくる期限切れ  
日曜日 楽しみな予定寝付けない

西家 侑希

冷蔵庫 整理整頓期限切れ  
日曜日 心身共にゆっくりと

三木ひづる

冷蔵庫 買い替える度大型に  
日曜日 用事いろいろ予定して

山口 定子

冷蔵庫 朝昼晩を楽しみに  
中瀬 公三

## 兵庫県高齢者特別賞 受賞



浅田耕三さん

浅田耕三さんに、この度、九十歳以上の高齢で現在も健康で、豊かな知識と経験をもって社会に貢献されている方に授与される「兵庫県高齢者特別賞」が贈られました。

浅田さんは高等学校教師時代から歴史小説の執筆活動を続け、多数の著書が出版されています。また、山崎町立図書館の時から「古典を読む会」の講師を長らく勤めたり、波賀町教育委員会が毎年発行してきた『掘り起こそうわがふるさと』では、その推敲や指導を続けるなど地域の文化振興に大きく貢献されました。なお、わが山崎文化協会では、この『やまさき文化』の編集委員を長らく努め、数多くの巻頭小説を寄稿していただきました。

浅田さんのこれまでの功績を称えて表彰されたことに敬意と祝意、そして感謝を申し上げます、ここに紹介いたします。

# 持続可能な伝統芸能の継承をめざして

## 山崎郷土芸能保存会

宇原獅子舞保存会 富士川 満

宇原獅子舞は、宍粟市山崎町宇原において安政5年（1858年）から伝承されている獅子舞です。雄獅子、雌獅子がありそれぞれに馬の鬘たてがみを使用した毛獅子で、低い姿勢で生きたように舞うのが特徴です。

長い歴史のある宇原獅子舞ですが、地域の少子高齢化による担い手不足や、長年使用してきた「獅子頭」の老朽・損傷など存続の危機にありました。このような状況の中、獅子舞を継承するために様々な取り組みを行ってきました。まず、獅子舞保存会は地元在住もしくは出身者がほとんどでしたが、近隣地域からも参加者を募集しました。また男性だけでなく獅子舞の演者に女性も募集し、実際に秋祭りや獅子舞を演じ新聞に取り上げられました。

獅子頭の修繕については、コロナ禍で秋祭りが開催できない状況だったため、国や県などが行っている民俗芸能への補助金制度を検討しました。補助金制度の中から、文化庁の伝統文化親子教室事業と県の互助会に申請を行い、審査に合格し受け取った補助金で獅子頭を新調することができました。

こうして獅子舞の活動をコロナ禍が明けてから本格的に再開することができました。

文化庁への申請を行う過程で、宇原獅子舞の活動が民俗芸能を研究されている久保田先生の目に留まり、様々な団体や協会に推薦頂くようになりました。一昨年には、先生より宇原獅子舞の映像を残したいと依頼があり、プロのカメラマンに獅子舞を撮影頂き、その動画は当保存会の公式ホームページに上げています。

2024年には、第44回伝統文化ポラ賞を受賞することができました。当賞は伝統文化の分野では権威ある賞であり、審査の際には上記の継承に関する取り組み、特に獅子舞の演者に女性を受け入れた点が評価されたことで大変光栄なことであります。

また、2024年11月23日に東京で開催された第71回全国民俗芸能大会に推薦を受け、参加しました。本大会で演じた獅子舞の映像は日本の伝統芸能の資料

として世界に配信されることとなりました。2025年の大阪万博にも出演することが決定しており、我々の活動は注目されています。当保存会では、「宇原獅子舞を活かした地域おこしと地域貢献」を理念とし活動を続けて参ります。



2024年岩田神社秋祭り



第71回全国民俗芸能大会

## 宇原獅子舞保存会の健闘を称えて

過疎化や少子高齢化が進行する中で、地域の伝統芸能を保存していくか、かにかに困難なことか。後継者不足や、近年のコロナ禍での休止も相まって、市内の各地にある獅子舞保存会は休止や廃止を迫られている団体が少なくありません。

そんな中であって、この宇原獅子舞保存会は「宇原獅子舞を活かした地域おこしと地域貢献」を理念に掲げ、旧来の枠を取り払い、新しい形の保存活動に積極的に取り組んでいます。

会員募集を近隣地域に広げ、女性も演者にするなど、若返りを図り、演舞の動画をホームページに上げていくなど、ネット時代にマッチした素晴らしい活動を展開しています。また、他地域のイベントなどにも積極的に出演し、それらの活動が認められ、本年度第44回伝統文化ポラ賞という栄えある賞を受けられ、山崎文化協会としても地域伝統芸能の保存活動に先進的に取り組まれていることに敬意と感謝の意を表します。

今後、さらなる活動の深化も期待しつつ、健闘を称えます。

山崎文化協会

# 宍粟市山崎文化協会

## 役員及び団体名

会長	前野 良造	理事	志水 豊章
副会長	三谷 恭三		宇田 詔三
	宮脇 昭介		三宅 哲朗
	秋久 澄子		田中 涼子
	大谷 司郎		三谷 恭三
			下村 孝吉
			幸嶋恵美子
			田中 良子
			土方 研三
			辛川 健二
			岸本 幸子
			福井 茂
			藤永 幸正
			菅原 淳
			石田 陽子
			長川 伸介
			宇田 幸夫
			小林由佳子
			山本 修示
			山根 和成
			加古玖美子
監事	畑中 正之		
	菅原 淳		
事務局長	伊藤 次郎		
事務局次長	谷林 哲哉		
会計	小西 美穂		

(敬称略・順不同)

## 「やまさき文化」編集委員

編集長	大谷 司郎
委員	秋久 澄子
	長川 伸介
	山本 修示
	田中 良子
	野谷るり子
	小西 美穂

### 事務局だより

私事ですが、昨年のやまさき文化43号の短歌のグループの手書き原稿をパソコンでデータ化の作業をしていて、その一首に

歌詞の意味知ればジリオラと  
おなじ年ノノレタノノレタ  
固き青き実

と入力しました。どこか聞き覚えのあるノノレタと言う言葉、そしてジリオラという歌手。

印刷ができ、再度冊子に目を通す  
と思い出しました。歌手はジリオラ  
チンクウェッティというイタリア  
の歌手です。それは60年前のラジオ  
から流れてよく聞いたものだったの  
です。当時の私にはまだ若く、しか  
も歌詞の意味も理解できませんで  
したが、どうも初恋を歌っていたよう  
です。

ラジオ関西の500万人のポピュ  
ラーリクエストという番組で確かコ  
ジマサオさんという方がDJだっ  
たと記憶しています。私が中学2年  
生のころでした。番組のタイトルが  
500万人云々で一億人にまだなっ

ていない時代というのが面白いです  
ね。現在と違い、私にとっては唯一  
の音楽情報番組でした。ビートルズ  
がリアルタイムで次々とヒット曲を  
出していたころです。

短歌のことはあまり明るくありま  
せんが、この作品を読んで私の青春  
がスタートする60年前の時代に瞬間  
の内に連れて行ってくれたのです。  
この方の作品に出合うことで久しぶ  
りにワクワク感が年甲斐もなく湧い  
てきました。ありがとうございます  
た。

### 編集後記

事務局長 伊藤 次郎

この『やまさき文化』が創刊され  
た昭和57年から編集委員として、ま  
た巻頭小説の寄稿を続けるなど、長  
年にわたり当協会の推進役としてご  
尽力された浅田耕三氏が、この度兵  
庫県高齢者特別表彰を受賞されまし  
た。94歳を越えてご健在でおられる  
ことをありがたく思っております。

今回巻頭に、近年の社会情勢の変  
化の中で、宗教心や死生観について  
改めて見つめてみたいとの思いから  
宇野裕章氏に「娑婆と浄土」の寄稿  
をいただきました。人として生き、  
つながりの中で生きるこの世の重み  
を感じさせられました。

特別寄稿の秦誠氏は、日本を代表  
する重要文化財の保存修復の第一

線で活躍されている貴重な存在であ  
ることが分かりました。山崎を離れ  
て、多分野で活躍されている方々の  
寄稿は、在郷の我々には大きな励み  
になります。

コロナ禍を経て地域文化団体の活  
動がダメージを受けましたが、今号  
に22団体の活動紹介を掲げることが  
できました。短歌愛好者が減少する  
中で、今回は文大短歌部がページを  
つないでいただきました。そして、  
なかでも宇原獅子舞保存会の活動は  
突出しており、従来の殻に籠らず、  
打って出ようという躍動を感じさ  
せ、頼もしい限りです。

本誌にご協力いただきました皆様  
に心から敬意と感謝を申し上げます。

編集長 大谷 司郎

### やまさき文化 第44号

令和7 (2025) 年3月25日

編集 『やまさき文化』編集委員会  
 発行 宍粟市山崎文化協会  
 事務局 宍粟市教育委員会事務局  
 社会教育文化財課内  
 印刷 デザイン・いんさつ工房 萬まる堂



発泡スチロール製造一筋55年!!

Tanisasa

株式会社谷笹化成工業所

〒671-2504 兵庫県宍粟市山崎町東下野137-1  
TEL:0790-65-0157 FAX:0790-65-0636

<https://tanisasa.com/>



ほっと、ひといき 伊沢の里

○お祝いの会食 ○法要後の会食・仕出し  
その他各種宴会承ります

リラクゼーションルーム 好評稼働中

〒671-2517 宍粟市山崎町生谷214番地1 TEL0790 (63)1380



Specialty Camera Shop  
コ-エ-カメラ

■本店/〒671-2576  
宍粟市山崎町鹿沢26-3  
TEL (0790) 62-2089 FAX (0790) 62-7429  
E-mail info@ko-e-1972.com

■咲ランド店/〒671-2545  
宍粟市山崎町中井10 咲ランドSC1F  
TEL・FAX (0790) 63-0533  
E-mail saki@ko-e-1972.com



おつきあい100年宣言

新築

リノベーション

リフォーム

住まいのこと、何でもお任せください

株式会社 山 弘



0120-12-8076

本社/宍粟市山崎町須賀沢704

■はりまの杜 住宅展示場(姫路店) ■たつの店 ■加古川店

●ホームページ  
<http://www.yamahiro.org>  
こちらからもご覧いただけます▶



ふじむら貸衣裳

人生の節目を飾る大切な一着を貴方に

結婚式はもちろん成人式・卒業式・七五三

また留袖や訪問着・喪服のご衣裳など

豊富な品揃えでお客様をお待ちしています。



兵庫県宍粟市山崎町山崎181 Tel:0790-62-0052 <http://www.fujimura-kashiishou.com>



森の妖精/ネーチャ

地域で最も信用・信頼される  
金融機関をめざして

●豊かな街づくりをお手伝いする●



**西兵庫信用金庫**

<https://www.shinkin.co.jp/nisisin/>

TEL 0790-62-2020



森の妖精/サッキー

= お車と住まいの快適、なんなりと =

**ホンジョウ**

(株)本條商店・ホンジョウプロパン(株)

**本社** 宍粟市山崎町中井 96

石油・電力・洗車・バッテリー  
タイヤ・オイル・カーリース

☎0790-62-4321

電気・ガス・水道工事・家電全般  
住宅リフォーム・おそうじ代行

☎0790-63-1234

不動産のことならお気軽にご相談下さい

土地・建物・売買・仲介・マンション・アパート賃貸

**株式会社ファースト商事 エイブル**

親切丁寧をモットーに社員一同皆様のご来店をお待ちしております。



株式会社ファースト商事  
エイブルネットワーク山崎店  
宍粟市山崎町今宿21番4  
TEL 0790-62-0001  
FAX 0790-62-4787

株式会社ファースト商事 福崎店  
エイブルネットワーク福崎店  
神崎郡福崎町西田原1821番4  
TEL 0790-22-1235  
FAX 0790-22-1236

つくるでつなく



**上林建設株式会社**

〒671-2554 兵庫県宍粟市山崎町御名226番地1

TEL.0790-62-2828 FAX.0790-62-7186



イメージキャラクター  
けんちくん

各種新車・中古車・介護車両販売 リース 車買取  
民間車検 整備 钣金・塗装 ボディーコート ETC

🔧まごころサービス🔧

**光徳自動車販売株式会社**

〒671-2542 兵庫県宍粟市山崎町船元242

TEL **0790-62-1780**

E-mail: koutoku@gol.com